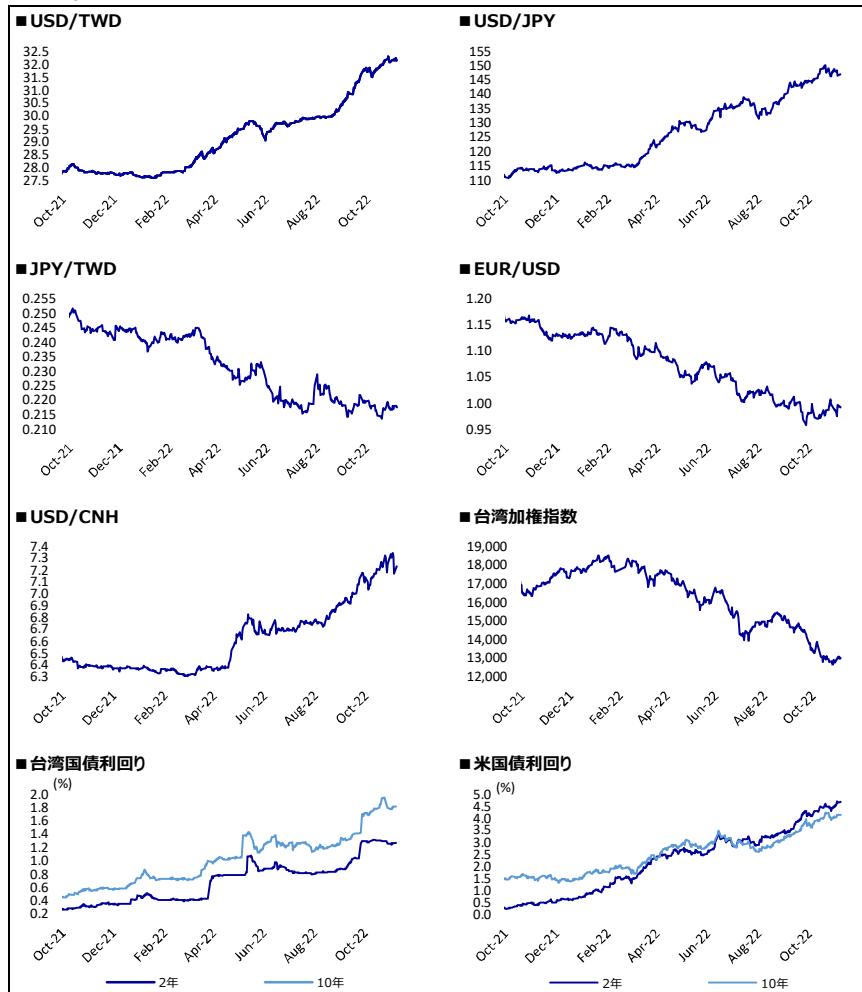


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初10/31は32.132でオープン後、台湾株が上昇したものの、輸入企業のドル買いが優勢となり、32.24付近まで上昇。11/1も台湾ドルは売られ、一時32.314まで上昇したものの、人民元が反発したことを受けて32.18付近まで戻した。11/2はFOMCを控えて、32.17付近の狭いレンジで推移。11/3はFOMC後のパウエル議長のタカ派な会見を受けて、台湾株が急落し、ドル台湾ドルも32.29付近まで上昇。しかし、輸出企業のドル売りから上値は押さえられ、32.24付近で推移。11/4は台湾株が下落し、32.28付近まで上昇したが、人民元がドルに対して買われたことや輸出企業のドル売りから下落し、最終的に先週比0.1%ドル高台湾ドル安の32.185で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は183.7億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は下落。週初10/31は147.76でオープン後、FOMC等重要イベントを控える中、様子見ムードから148円ちょうどを挟んだレンジで推移していたが、米金利の上昇を背景にドルが買われ148.84まで上昇。11/1は人民元がドルに対して買われると、ドル円もつられて下落。一時147円を割り込んだものの、米10月ISM製造業景気指数が予想を上回ったことから148円台前半まで戻した。11/2はFOMCを控えてポジション調整や北朝鮮のミサイル発射を受けたリスクオフの動きから147円台前半まで下落。FOMCでは、予想通り0.75%の利上げを決定したが、声明文に今後の利上げについてこれまでの金融引き締めを考慮と追加されたことから利上げペースが減速するとの見方が強まり、一時145.68まで下落。しかし、その後のパウエルFRB議長の会見がタカ派な内容であったことからドル円は反発し、147円台後半まで戻した。11/3は東京休場の中、北朝鮮のミサイル発射の報道を受けたリスクオフの流れもあり、147円台前半まで下落したが、米金利が上昇するにつれてドル円も148円台半ばまで上昇。11/4は中国でのゼロコロナ政策の緩和への期待からドルが人民元に対して下落するとつられてドル円も下落し、147円台後半まで下落。その後、米雇用統計が発表されると非農業部門雇用者数が予想を上回ったことから148円台前半まで上昇したものの、失業率が予想より悪化したことからドル売りが優勢となり、146円台半ばまで下落。最終的に先週比0.5%ドル安円高の146.67で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：31.950-32.500
今週は米中間選挙、米10月CPIを控えており、ボラティルな展開を想定。米10月CPIについては予想外にCPIが下がらなかった場合は利上げペースは維持されとの見方が強まり、再び台湾ドル安の流れとなるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：145.00-151.00
今週は米中間選挙、米10月CPIを控えている。CPIは予想外に低下しておらず、10月CPIについても予想以上に下がない場合は12月の利上げも0.75%の利上げが想定され、ドルは買われるだろう。ただし、150円台では為替介入も警戒され、上値は重く推移すると見込む。

今週の予定

11/7 (MON)	
11/8 (TUE)	台湾10月CPI、台湾10月貿易収支、米中間選挙
11/9 (WED)	
11/10 (THU)	米10月CPI
11/11 (FRI)	米11月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。